

松ヶ崎妙泉寺の江戸時代

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館



一石五輪塔が出土した土壌（北から）右は一石五輪塔などの出土状態を拡大

2003年7月から12月まで実施した左京区松ヶ崎小学校内の発掘調査では、平安時代後期の礎石建物や庭園跡を検出し、史料にみえる「松ヶ崎寺」の一端が明らかになりました。リーフレットNo.185に発掘ニュース「松ヶ崎廃寺」として報告しています。

松ヶ崎寺は平安時代中期に源保光が建立した天台宗の寺院で「円明寺」と号しますが、後に「歡喜寺」と寺号を改め、さらに法華宗

の「妙泉寺」となって明治時代初めまで現地に存続しました。ここでは江戸時代の妙泉寺について解説します。

江戸時代の長方形の土壌から一石五輪塔を含む墓石が多数出土しました。一石五輪塔は五輪塔の形状に石材を削り出したもので、はんれい岩とよばれる火山岩の一種でできています。本誌No.118で紹介したキリシタン墓碑も同じ石材でできており、宗教界が異なって

も墓石は同じ石材で作っていることがわかりました。

一石五輪塔のうち5基には年号や法名が刻まれていました。年号は、天文が1例（14年）、天正が4例（3・4・10・11年）確認できました。天文期は「天文法華の乱」（天文5 = 1536年）によって妙泉寺が焼失していた時期、天正期はそれが再建された時期にあたります。

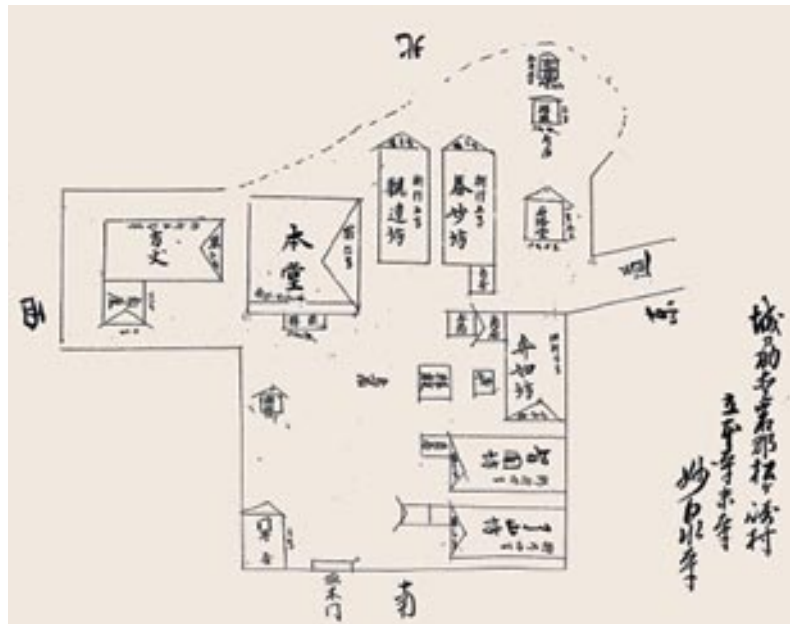
法名では「妙善尼忌」「妙泉童

子」「妙法忌」「妙泉忌」「日撃法印」が確認できました。いずれも妙泉寺に関係した人物でしょう。なかでも日撃法印は、妙泉寺内部にあった5つの塔頭の1つ「止静院」(天正2年4月創建)の開基にあたる人物とみられます。五輪塔には天正4年10月14日の銘があるため、創建後しばらくして没したことがわかる新史料といえます。

またこの調査のおり、地元の岩崎皓氏から江戸時代の妙泉寺を描いた絵図を拝見させていただきました。絵図は3枚あり、それぞれ寛政元年(1789)・天保14年(1843)・嘉永3年(1850)の年号があります。作成年代が確定できる非常に貴重な絵図で、実父の治一郎氏が模写されたとのこと。この絵図によって妙泉寺と五塔頭の配置が明確になりました。

また岩崎氏は、この絵図を明治時代の地図と比較することで、境内と小学校の関係も復原されています。明治の地図には小区画を示す線が描かれており、境界の一部は現在の小学校にも残されています。これらの境界には石垣が構築されていたはず。1993年の調査で出土した石垣は、こうした箇所に設置されていたものとみられます。

絵図によりますと、今回の調査地付近には「石塔堂」があります。調査では小礫を敷いた南北の路面を検出しましたが、これは石塔堂への参道であったと思われます。路面の端に骨壺が出土したこともそれを裏付けます。また明治時代



妙泉寺絵図(寛政元年 岩崎氏所蔵)



妙泉寺と松ヶ崎小学校の関係 (岩崎氏作図を調製)

にはここは墓地であったとされます。一石五輪塔を初めとする墓石の出土は、墓地の整理で欠損していたものなどが廃棄されたのではないのでしょうか。

明治維新を迎える頃には、妙泉寺・五塔頭ともに無住の廃寺に近い状態であったようです。明治の学区制に際しては、明治6年に一坊が教室となります。明治8年に

は止静院を塔頭とする五院を妙泉寺に合併し、明治9年には新校舎ができます。大正7年には小学校の敷地拡大に際し本涌寺と合併し、両寺院の名をとって涌泉寺となり、現代に至ります。

なお本号は、岩崎皓氏のご教示によるところが大きいことを明記しておきます。

(丸川 義広)